

「働く」ということ

校長 木和田 美佐

令和8年は思いがけない雪で始まり、交通網がかなり乱れる年明けとなりました。私自身も、新幹線に乗る機会があったのですが、帰省先から東京方面に帰る人々で車内はかなり混雑し、乗り降りに時間がかかって予定時刻に出発できない状況の中、「予定より3分遅れての出発となります。出発が遅れ、大変申し訳ありません。」という車内アナウンスがありました。「車掌さんも大変だろうに」という思いと、それでも東京にはほぼ定時に到着、というタイムマネジメントに、プロの意識を感じた年明けでした。

さて、1月13日(火)から16日(金)は本校の給食週間と位置づけ、日ごろお世話になっている給食について改めて考えるとともに、給食に携わっている栄養教諭や調理員の方々に感謝する取組が行われました。季節の旬の食材や、日本全国の郷土料理を取り入れた献立は、学校生活の中での大きな楽しみとなっています。また、栄養のバランスも考えられているため、生徒たちの成長にも欠かせません。本校の調理員さんは、7時ごろにはもうすでに来て調理を開始しており、夏は暑く冬は寒い中、毎日ほぼ13人体制で、1日平均830人分の給食を作ってくださっています。普段は決して表に出てくることはなく、学校の教育活動の裏方に徹して働いてくださっていますが、いつも決まった時間に心のこもった手作りの温かい食事が提供されている、ということについては、これもまたプロの心意気を感じます。

1月28日(水)から30日(金)の3日間、本校の2年生が「未来くるワーク体験」として地域の様々な事業所等で職場体験のお世話になりました。受け入れをさせていただきました事業所等の方々には、この場を借りまして心より感謝申し上げます。生徒たちは、様々な事業所の方々の働く姿に直接接し、自分自身も経験する中で、働くことの厳しさを実感するとともに、日ごろ働いている自分の家族に感謝の思いを馳せたことと思います。「働く」意味を言葉で正確に伝えることは難しいことですが、これから社会に出ていく生徒たちが、これからの人生の中で悩んだり困ったりしたときに、毎日当たり前のように提供される給食や、職場体験で出会った職場の方々の働く姿から何かを感じ取り、自分自身が大人になったときの道標にしてほしい、と願うばかりです。

最後になりますが、現在、3年生は進路選択の真ただ中で、日々試験勉強と入試本番に臨んでいます。これまで積み重ねてきた学習への取組の集大成として、全力を出し切ってほしいと思います。保護者の皆様方には、体調管理や天候状況に心労が続いていることと思いますが、生徒たちの頑張りを田島中教職員一同バックアップしていきます。

頑張れ！三年生！！